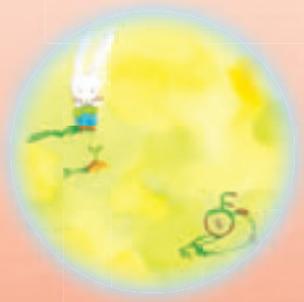


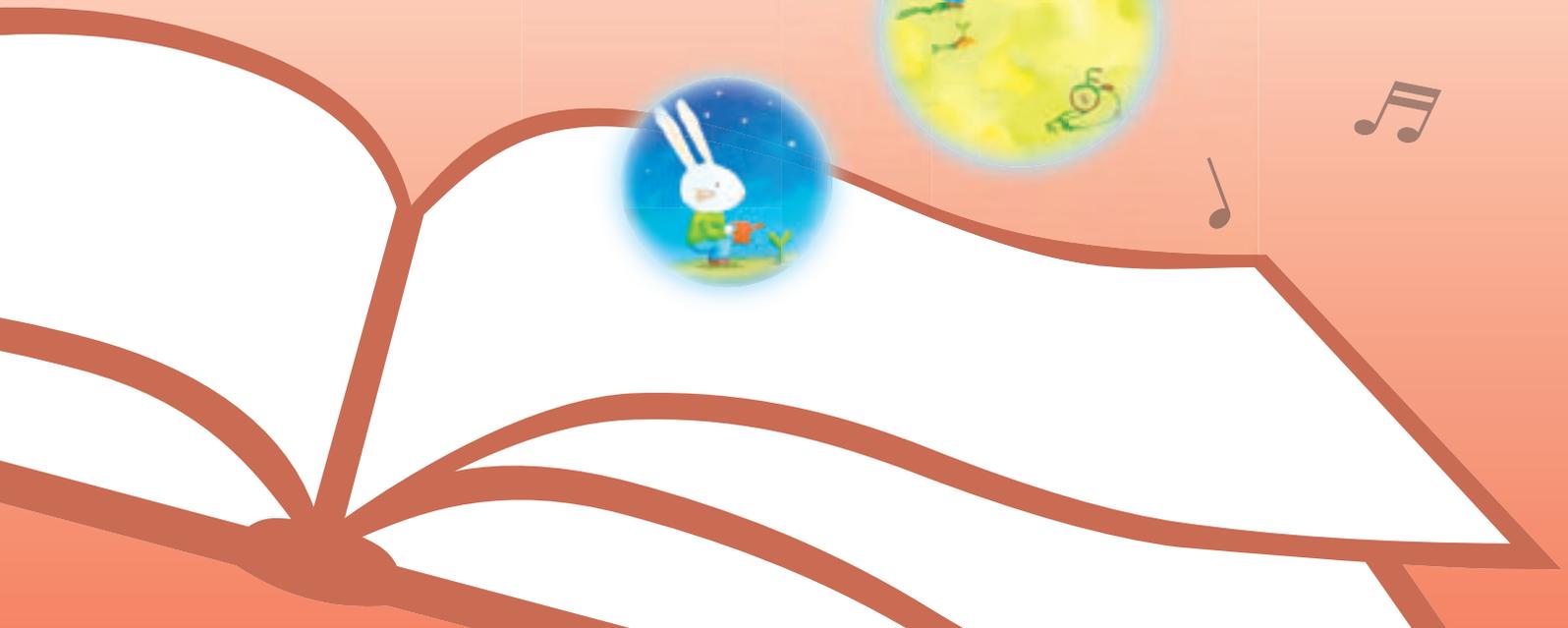
人・夢・大地

やさしさ奏でる 絵本の里けんぶち



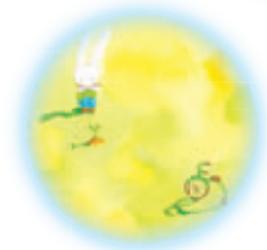
第5期剣淵町総合計画

平成23(2011)年度～平成32(2020)年度



人・夢・大地

やさしさ奏でる 絵本の里けんぶち



第5期剣淵町総合計画

平成23(2011)年度～平成32(2020)年度

剣淵町

旭川

札幌

北海道中央部よりやや北、旭川市から北へ45kmに位置します。

町名は、アイヌ語の「ケネベツ(はんの木の多い川)」を語源としています。

第5期剣淵町総合計画書の 発刊に寄せて



剣淵町長 佐々木 智雄

剣淵町は明治32(1899)年、屯田兵制度による北海道開拓の最期の地として開拓の鍬が下るされ、たくましい開拓精神とたくまぬ努力により、今日の本町発展の礎が築かれました。

剣淵町は110年あまりの間、基幹産業の農業を中心に発展を続け、住民の生活環境の充実などに取り組み、住みよいまちづくりを進めてきました。

現在は、「絵本の里」づくりを柱としたまちづくりにも取り組み、人々のやさしさと温もりを育み、魅力あふれるまちづくりを推し進めています。

平成17(2005)年を境に日本の総人口は減少に転じ、我が国は世界的にも例のない速さで人口の減少と少子高齢化が進んでいます。

特に地方では「超高齢社会」と言われる人口構成で、子育てや老後、介護への不安が高まり、地域社会における支え合いがより求められています。

剣淵町に住む者同士が、立場や年齢、経験の違いなどを越えて、知恵や力を出し合い、「協働のまちづくり」により課題を解決し、支え合っていくことが必要であります。

また、全国的に地域主権の動きが広がるなか、地方自らの判断と責任ある行動がより求められています。

こうした時代のなかで、将来のまちづくりの指針として平成23年度から平成32年度までの10年間を計画期間とする「第5期剣淵町総合計画」を策定いたしました。

本計画は、「人・夢・大地 やさしさ奏でる 絵本の里けんぶち」をまちづくりテーマとし、今後も人づくりや人とのつながり、支え合いを大切にしながら、農業を中心に築いてきた豊かな大地において、これまで培ってきた「絵本の里」づくりを継承し、「住みよさ」と「持続・発展」を両立したまちづくりを進めます。

おわりに、この計画の策定にあたりまして貴重なご意見、ご提案をお寄せいただいた町民の皆様、そして慎重なご審議を賜りました総合計画審議会委員並びに町議会議員各位に厚くお礼申し上げますとともに、計画の推進に際しましては変わらぬご支援をお願い申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

町民憲章

わたくしたちは 北国の風雪に耐え たくましく生きぬいた先人の開拓精神を受けつぐ町民です
ここに 農業を基盤としての躍進に願いをこめてこの憲章を掲げます

- 一. 郷土に足をふみしめ 強く生きぬく町民
- 一. 働くことに誇りと喜びをもつ町民
- 一. 健康であたたかな家庭の輪を広げる町民
- 一. 教養を高め 豊かな文化を創造する町民
- 一. 固いつながりをもち きまりを守る町民

(昭和48年11月3日制定)



町章

(昭和43年6月20日制定)

「剣淵」をローマ字で書いた時の頭文字「K」をデザインしたものです。中央の三角形は郷土の安定と平波山を、鋭角の組み合わせは未来への発展と躍進を、外側の二重の輪は団結と協力と和を、それぞれ表現しています。



町木「やちだも」

(昭和53年7月11日選定)

屯田兵が剣淵町に入地した時、一際ぬきんでた「やちだも」の大木がありました。昭和31年、この大木を町の文化財に指定し、昭和43年には北海道の名木100選にも選ばれました。その後、本町開基80年に「町木」に選定しました。



町花「エソリンドウ」

(昭和53年7月11日選定)

入地当初から剣淵町内に自生しており、人々の心を慰めてきました。剣淵町を築き上げた先人の労苦をしのび、郷土発展にふさわしい花として、本町開基80年に「町花」に選定しました。

剣淵のあゆみ

明治時代 (明治30年～明治45年)

屯田兵によって開拓の一步を踏み出した。
熊笹を刈り、大木を切り倒した。生きるために拓いた。

- 天塩国上川郡に剣淵村が置かれる(30年)
- 仮定県道が剣淵まで開削される(31年)
- 屯田兵屋の建築始まる(31年)
- 剣淵村ほか3か村戸長役場が剣淵村に置かれる(32年)
- 剣淵郵便局開局(32年)
- 屯田兵337戸が入地(32年)
- 剣淵尋常高等小学校創立(児童数237人)(32年)
- 剣淵駅開設(33年)
- 水稻の試作始まる(33年)
- 団体入植が始まり
- 開拓が進む(34年)

明治34年の市街地



極度の泥炭と水との戦いだった。
川は氾濫、道路はひざまでぬかった。
27kmの給水溝をつくった。しかし、水は来なかった。

- 屯田兵村給水溝掘削工事が完工するが通水は失敗に終わる(36年)
- 大水害と早霜のため収穫皆無(37年)
- 2級町村制施行(39年)
- 屯田兵村給水溝改修工事完成(42年)

大正時代 (大正元年～大正15年)

戦争、相次ぐ冷水害。特需景気は続かなかった。
市街に電灯がついた。希望が湧いてきた。

- ▶第1次世界大戦始まる(3年)
- 和寒を分村、和寒村が独立し、2級町村制施行(4年)
- 各地区に信用購買販売組合が設立(4年～)
- 市街に電灯がつく(8年)
- 第1回国勢調査・人口10,693人、平均6人家族(9年)
- 青年団結成(11年)
- 剣淵商工会創立(12年)
- 桜岡貯水池工事竣工(14年)
- 市街地に公衆電話開設(15年)

昭和時代 (昭和元年～昭和64年)

大凶作、戦争・・・悲劇の始まりだった。
多くの自由が奪われた。家族も失った。

- 温根別に分村、温根別村が独立(2年)
- 栄町に「七七座」ができ映画や芝居が上演される(3年)
- 開基30年記念式典挙行(3年)
- 女子青年団創立(4年)
- 大水害が起きる(7年)
- 産業組合を設立(9年)
- 剣淵神社の社殿落成(12年)
- 北剣淵郵便取扱所(現在の西原郵便局)開所(14年)
- 剣淵橋完成(14年)
- ▶第2次世界大戦始まる(14年)

昭和3年の市街地



- 各小学校を国民学校に改称(16年)
- ▶太平洋戦争始まる(16年)
- 役場庁舎落成(19年)
- ▶第2次世界大戦終わる(20年)

戦いは終わった。復員者が増え村は活気づいた。
5月の異常に暑い日、市街地が焼けた。
村民が一丸となって助け合った。

- 戦災者の緊急入植が始まる(20年)
- 第1回村民運動会開催(21年)
- 公選による村長選挙(22年)
- 駅前には厚生マーケットできる(22年)
- 剣淵農業協同組合設立(23年)
- 開基50年記念式典挙行(23年)
- 市街地大火、173戸焼失(23年)
- 第1回成人式を行う(24年)
- 中学校校舎落成(24年)
- 村でトラックを購入(25年)
- 村内有線ラジオ放送開始(27年)
- 土別信用金庫剣淵支店開店(27年)
- 市街地にすずらん灯設置(28年)
- 村財政再建計画樹立(29年)
- 台風15号により村有林8,628本倒れる(29年)
- 豪雨により河川がはん濫、床上浸水61棟(30年)
- 新農村建設計画を樹立(31年)
- 新行政区画「第14区」を新設(33年)
- 開基60年記念式典挙行(33年)
- 剣淵高等学校校舎新築第1期工事完成(33年)



昭和23年の市街地大火

国は、国民所得倍増計画を打ち出した。
若い人たちが都会へ吸い込まれていった。
農村は過疎へと向かいはじめた。
市街に待望の飲み水が来た。井戸水から開放された。

- 広報けんぶち第1号発行(35年)
- 市街地大通りが舗装される(35年)
- 簡易水道工事完成(36年)
- 町制を施行、「剣淵町」になる(37年)
- 子供会連合会発足(38年)
- 老人クラブ連合会発足(40年)
- 第10回国勢調査・人口8,013人、平均5人家族(40年)
- 第1次農業構造改善事業始まる(42年)
- 剣淵農協スーパー開店(42年)
- 上川北部農協合理化澱粉工場落成(42年)
- 開基70年記念式典挙行(43年)



昭和36年の大通り

大規模農業基盤整備事業に着工した。
一方で、米が余り出した。
高度経済成長にもかげりが見えてきた。
学校を統合し、校舎を新築。
高齢化時代が到来した。

- 道営ほ場整備事業始まる(桜岡地区)(44年)
- 農集電話が開通、同時に有線放送施設設置(45年)
- ▶米の生産調整政策始まる(45年)
- 過疎地域の指定を受ける(45年)
- 第1期剣淵町総合開発計画策定(46年)
- 町立診療所落成(47年)
- 町政モニター制度発足(47年)

- 第1回商工まつり開催(47年)
- 老人医療費無料化(70歳以上)実施(47年)
- 3歳未満児の医療費無料化実施(48年)
- 剣淵町民憲章制定(48年)
- 剣淵小学校の実質統合式を挙行(49年)

大水害発生、道路が決壊、田・畑の被害1,742ha。
農民が立ち上がり、水防組合を結成した。
剣淵川の本格改修が始まった。

- 台風6号により大水害(50年)
- 第1回農業まつり開催(51年)
- 剣淵中学校校舎完成(52年)
- 西原小・中学校、統合のため閉校式(53年)
- 開基80年記念式典挙行(53年)
- 町花・町木制定(53年)
- 更生施設剣淵西原学園開所(55年)
- 総合庁舎、町民センター完成(55年)
- 札幌剣淵会発足(56年)
- 剣淵海洋センター竣工(56年)
- 学校給食センター完成(56年)
- 集中豪雨による水害(56年)
- 第2期剣淵町総合開発計画策定(56年)
- びばからすスキー場にリフト、照明完成(57年)
- 第1回剣淵ふるさと祭り開催(58年)
- 地場産品加工研究センター完成(58年)
- 地力増進施設完成(59年)
- マツダ株式会社耐寒テスト開始(59年)
- 新しいまちづくり運動スタート(61年)
- 国鉄合理化で剣淵駅無人化(61年)



昭和50年の水害(東町窪井地)

絵本の里づくり運動が起こり、新しい希望が芽吹き始めた。

- 絵本の里づくり運動(63年)
- 開基90年記念式典挙行(63年)
- JR剣淵駅改築(63年)
- 平波球場完成(63年)

平成時代 (平成元年～)

- 特別養護老人ホーム剣淵ひらなみ荘落成(元年)
- 剣淵高等学校落成(元年)
- 屋内ゲートボール場完成(元年)
- 農業開発センター閉所(18年間の歴史に幕)(2年)
- 武道館完成(2年)、絵本原画収蔵館完成(2年)
- 第3期剣淵町総合開発計画策定(3年)
- 絵本の館オープン(3年)

待望の温泉が出て、町民の憩いの場ができた。

- 待望の温泉(源泉)が出る(3年)
- 農業振興センター完成(3年)
- 剣淵斎場完成(3年)
- けんぶち絵本の里大賞始まる(3年)
- 香川県志度町(現・さぬき町)との児童交流始まる(4年)
- 常設保育所完成(4年)
- 授産施設剣淵北の杜舎落成(5年)
- 第三セクター(株)レークサイド桜岡設立(5年)

- 農家全戸にファクシミリ設置(5年)
- レークサイド桜岡(温泉)がオープン(5年)
- 人参洗滌選別施設完成(6年)
- レークサイド桜岡全面オープン(6年)
- 富山県大門町(現・射水市)と友好都市提携(7年)
- 第1回桜岡湖水まつり開催(8年)
- 香川県志度町(現・さぬき市)と友好都市提携(8年)
- 浄化センター完成(9年)
- 情報公開条例制定(9年)

開基100年。大きな節目を迎えた。

- 錦町行政区を東西に2分割(10年)
- 高齢者等福祉寮(福寿寮)開所(10年)
- けんぶち食のふるさと館オープン(10年)
- 健康福祉総合センター・町立診療所完成(10年)
- 開基100年記念式典挙行(10年)
- 玄米バラ集出荷調整施設完成(10年)
- 開基100年剣淵音頭「大地の歌」作成(10年)
- 剣淵町多目的運動広場オープン(10年)
- 一般廃棄物最終処分場開所(11年)
- 桜岡パークゴルフ場高台コースオープン(11年)
- ふれあいパークゴルフ場オープン(11年)
- 第4期剣淵町総合計画策定(13年)
- 剣淵高等学校新寄宿舎開寮(13年)
- 剣淵高等学校50周年記念式典挙行(13年)
- 絵本の里家族旅行村全面オープン(13年)
- ごみ焼却場閉鎖(14年)
- 三町広域生ごみ処理場完成(14年)
- 土地改良区区域合併で「てしおがわ土地改良区」誕生(16年)

高速道路が開通し、新たな絵本の館も誕生した。
観光交流のまちとして、さらに一步踏み出した。

- 土別剣淵インターチェンジが開通(15年)
- 土別市・和寒町・剣淵町・朝日町任意合併協議会設立(15年)
- 剣淵町・和寒町合併協議会設立(16年)
- 農業協同組合の合併で「北ひびき農業協同組合」誕生(16年)
- 新絵本の館オープン(16年)
- 剣淵町・和寒町合併協議会解散(17年)
- 行政区再編・新自治会組織発足(17年)
- 剣淵町自治会連合会設立(17年)
- 町全域字名改正及び地番改正(17年)
- 道の駅「絵本の里けんぶち」、剣淵町観光交流センター(まちの駅)がオープン(18年)
- 富山県射水市と姉妹都市提携(18年)
- 桜岡公園多目的運動広場ランニングコース完成(19年)
- びばからすスキー場閉鎖(19年)
- 開基110年記念式典挙行(20年)
- ふるさと納税(寄付)スタート(20年)
- 西岡ダム完成(21年)
- 民間・ビバアルパカ牧場オープン(21年)
- 新学童保育所オープン(22年)



新絵本の館

もくじ

基本構想

計画の体系

1	はじめに	
①	「総合計画」とは	12
②	剣淵町のいま	14
③	時代の流れからみる、全国的なまちづくりの課題	16
④	剣淵町の課題	20
2	基本構想	
①	基本理念	24
②	まちづくりテーマ	25
③	主要な指標	26
④	まちづくり分野の基本方向	30

重点プロジェクト

1	人と人とのつながりで、地域の元気と定住を高めるプロジェクト	34
2	地域の良さと資源を活かした産業振興プロジェクト	36
3	より実感できる“絵本の里”づくりプロジェクト	37

基本計画

第1章 地域の資源を活力に、豊かなまちをつくる

1	農業 [基盤]	40
2	農業 [経営]	42
3	農業 [安全安心な農業]	46
4	農業 [他の分野と連携した新たな取り組み]	48
5	林業	50
6	商工業	52
7	観光	54
8	特産品	58
9	就労環境	60

第2章 優しく、健やかな人を育むまちをつくる

10	子育て支援	62
11	小学校、中学校	66
12	高等学校	70
13	青少年の健全育成	72
14	生涯学習	74
15	芸術文化、文化財	78
16	スポーツ活動	80
17	健康づくり	84
18	医療	86
19	地域福祉	88
20	高齢者福祉	92
21	障がい者福祉	96
22	社会保障	98

第3章 自然を感じながら、快適に暮らせるまちをつくる

23	自然保護、環境共生	100
24	排水処理、し尿処理	102
25	ごみ処理、リサイクル	104
26	公園、憩いの場	106
27	墓地、火葬場	108
28	防災	110
29	消防、救急	112
30	交通安全	114
31	防犯、消費者対策	116
32	土地利用	118
33	住宅、宅地	120
34	水道	122
35	景観、環境美化	124
36	道路	126
37	公共交通	128
38	情報通信	130

第4章 まちづくりを楽しみ合えるまちをつくる

39	交流	132
40	コミュニティ	136
41	まちづくり活動	138
42	広報、広聴	140
43	男女共同参画	142
44	行政運営	144
45	財政運営	146
46	広域行政	148

資料

1	第5期剣淵町総合計画に関する諮問及び答申	152
2	剣淵町総合計画審議会委員名簿	153
3	剣淵町総合計画策定委員会の構成	154
4	剣淵町総合計画策定部会の構成	155
5	剣淵町まちづくり町民会議委員名簿	157
6	第5期剣淵町総合計画策定経過	158

町歌 (昭和43年7月25日制定)

開基70年を記念して作成しました。歌詞は一般公募で淵柳光男さんの作品が選ばれ、当時、学芸大学旭川分校の教授であった坂本富貴雄さんが補作しました。作曲は教員を退職後、剣淵に在住していた齊藤学児さんです。

- 1 見よ朔北の 空晴れて さみどりかおる 平波山や
われらが父母の 拓きたる 千古神秘の 原始林
たのしき郷土 剣淵の ああうるわしき 山の嶺
- 2 音無川の 水ぬるみ さわらび萌えて 風わたる
みなぎる希望 たくましく 友情とわに 誓いつつ
さかゆる郷土 剣淵の ああ遙かなる地平線
- 3 夕日に映ゆる 美羽鳥 明日を築く 諸人に
平和輝く 未来あり あふるる幸よ 花ひらく
のびゆく郷土 剣淵の ああゆたかなる この沃野

基本構想



まちづくり「絵・作文コンクール」入賞作品(その1)

小学4年生～6年生と中学生のみなさんから、『自分が思う未来の剣淵町』をテーマに、これからの剣淵について絵画と作文を募集しました。

絵の部(小学生の部)



6年生 大川 晏奈さん(最優秀賞)



4年生 徳井 太一さん(優秀賞)



4年生 松田 亜美さん(優秀賞)

作文の部(中学生の部)は32・38ページに掲載しています。